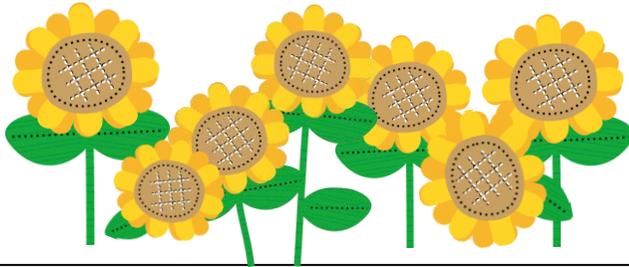


# 希望を語る

2000 年 8 月発足

21 年の歴史を持つ患者会“希望を語る会”ニュースレター



希望を語る会事務局:健康増進クリニック

TEL03-3237-1777 Fax03-3237-1778

[www.kenkou-zoushin.com](http://www.kenkou-zoushin.com) [info@kenkou-zoushin.com](mailto:info@kenkou-zoushin.com)

## 癌総合知の勧め7

院長 水上 治

私は先日 2 回ワクチン接種を受けました。副反応は軽度の局所痛のみで、発熱その他は何も起こりませんでした。ビタミン C 点滴も定期的に受けていますから、個人のコロナ感染抑制率はほぼ 100%となります。

コロナ騒ぎを通して、私は改めて自分の免疫について教えられました。ワクチン接種によって、1 万人に 1 人ほどがアレルギー反応たるアナフィラキシーショック、10 万人に 1 人程度が数日以内に死亡（因果関係不明）しています。自己免疫疾患である間質性肺炎の人が悪化して急死されたのが、私の確信を強めました。間違いなく、これらの背景に免疫力の低下があります。

半世紀にわたる臨床経験で、喘息やアトピーなどのアレルギー性疾患、リウマチなどの自己免疫疾患は、過労やストレスなどで免疫力が下がると悪化します。気管支や皮膚、関節などの現場で、異物あるいは自分自身に対する反応が激しくなり、リンパ球が暴れて症状を悪化させているのですが、それはマクロファージや樹状細胞など免疫の司令塔が機能不全を起こして、現場をコントロールできていないためです。ビタミン C 点滴や放射線ホルミシスなどは、免疫細胞のトップである司令塔を活性化することで、コロナワクチンの mRNA という異物に対して、現場のリンパ球を最適にコントロールし、抗体を作り、キラー T 細胞を活性化します（これは癌にもいいはず）。

免疫を学べば学ぶほど、本来免疫細胞軍団は実に細かく制御されて、完璧な秩序を維持していることに驚嘆します。上司がしっかりして、部下が現場で生き生きと仕事をしている組織は試練に耐え、生き延び、発展していきます。己の免疫細胞軍団が秩序だっていれば、ワクチンという異物をむしろ賢く処理し、味方にしてしまうはず。自分の生命力を私は信じています。

**注!!** ☞ 20 歳以下のコロナによる死亡者数はゼロなので、ワクチン接種による副反応リスクの方が高い若い方たちにはお勧めしません

# 五行歌

小林美智代さま

幸せの分岐点は  
空から爆弾が  
落ちてこないこと  
青い空が  
そのまま青いこと

急な雨に  
さわがしく  
鳥たちが飛ぶ  
ねぐらに帰るのか  
家族はいるのか



つぐみ S.S

## みーこねーちゃんの絵手紙

佐藤美恵さま



この作品は2016年に書いていただいたものです。  
佐藤様はH7年に脳梗塞で左半身麻痺となり、H24年より当院にて鍼治療を開始しました。加藤医師の勧めで始めた絵手紙。もともとは右利きですが、左の麻痺を克服するために、左手で書いています。

# 季節のたより～立秋

浅野伸一さま

8月1日は昔「八朔」と呼ばれる重要な節目の日でした。朔は「ついたち」のことです。八月一日と書いて「ほずみ」と読む姓があります。この日に稲穂を積んで神様に供えた風習に由来するものですが、「八月一日朝晴」と書いて「ほずみともはる」と言う姓名の人が実在したそうです。

昔の農村では昼寝はこの日で終わりにして、次の日から夜なべの仕事を始める風習があり「鬼節句」とか「婿の泣き節句」と呼ぶ地方があります。また新生姜の早生が実る頃で、嫁に新生姜を持たせて生まれた実家に「“しょうが”ねえ嫁だ」と言いながら里帰りをしたそうです。

そして、まもなく立秋（8月7日）に入ります。この日に1mの棒を正午に垂直に立てて、その影の長さが約35cm位です。夏至の日は20cm位でしたので、太陽がやや西の方にかたむくので、その分長くなるのです。

夜は夏至の日に比べて1時間も伸びます。

「秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる」…古今和歌集より

8月7日が立秋なのは、夏至の日（6月22日）と秋分の日（9月23日）のちょうど真ん中に当たるからです。太陽が北半球を最も強く照らす夏至を「夏の中史」、南半球を等しく照らす秋分を「秋の中史」で夏と秋の境目の「立秋」が今頃になったのです。

秋の気配をすぐそばに感じるという意味の季語が「秋隣」。本来は立秋に入る迄の言葉ですが、8月の暑い最中に時折吹く涼風こそ、秋の気配かも知れません。虫の鳴き声の変化や草木のようすなど、少しずつ空気が近づいてきます。8月8日から10日は、八（は）九（く）十（とう）の語呂合わせで「白桃の日」。甘い果汁が溢れてとろけるようなジューシーな果肉。日本の桃はおとぎ話の「桃太郎の鬼退治」、で有名な国、岡山県が元祖です。

瑠璃色をした小さな花で道端や畑の隅に咲いている「つゆくさ」。花を摺り布を染めたことから「着き草」とも呼びます。染めた着物がすぐ色褪せてしまうところから心の移ろいやはかなさを感じます。それにしても、この草は生命力が強く一葉でも残ればそこから息を吹き返します。

盆提灯のように真っ赤で丸く<sup>がく</sup>萼が袋状になって実を包む「ほうずき」。よく熟した実の成口から中の種や汁を出して、中を袋状にして口に含んで舌にのせ歯茎で押さえると、成口から空気がもれてキューキューと鳴る音が懐かしく想い出されます。やがて秋も次第に深まってまいります。

大空を染めたる庭のさるすべり根本軽石秋風駆ける

（参考文献 倉嶋厚「季節よもやま事典」  
東京堂出版 1994）



## 《院長と共に癌の勉強会》水上医師

8月の勉強会はお休みです

### クリニックより診療についてのご案内

★日曜休診のご案内

8/8・8/9（振休）・8/29・9/19・9/20（振休）

★第5水曜日休診のご案内

9/29

※12/29（水）は通常どおり診察いたします

★水曜日の診療時間短縮のお知らせ

治療時間 9：00～13：30

診察時間 10：00～13：00（担当：加藤医師）

電話受付 8：45～13：00



引き続き除菌作業を行いながら診療させていただきます  
患者さまにも、マスク着用と手指の消毒のご協力をお願いいたします  
ご不便をおかけいたしますがどうぞよろしくお願いいたします

### 加藤医師「こもれびの診療所」連絡先

TEL 03 (6806) 5457 FAX 03 (6806) 5758

[info@komorebi-shinryojo.com](mailto:info@komorebi-shinryojo.com)

### ☆今月のお花☆

リコリス・藤袴・カーネーション・とうがらし・リンドウ・ドラセナ他



オリンピックが始まりましたね。何でこんな時に…とと思っていましたが、アスリート達のそれぞれの熱い思いが詰まったオリンピックに感動や勇気、希望を頂き、こんな時にでも開催出来て良かったという気持ちに変わっていきました。

今月は色々なお花を少しずつ生けてみました。少し秋っぽい香りがします。暑い夏も過ぎてみればあっという間かも知れません。お身体に気をつけて、夏を少しずつ楽しんでお過ごしください。

ピンク色のカーネーションの花言葉は  
「感謝」 MI

★「希望を語る」は患者さまの体験談や、また特技を生かしたメッセージ、いま語りたい事、その他何でも、情報交換の場を提供させていただく冊子です。写真や原稿などございましたら是非、事務所またはスタッフまでお知らせください。お待ちしております。